

大阪パビリオン「マイナス 153 点」で竹中工務店が受注

知人の投稿から「日経 XTECH」10 月 31 日の表題解説を知った。揺れ動く万博を象徴するニュースとして紹介する。

2025 年開催予定の大阪・関西万博で大阪府や大阪市などが出展する大阪パビリオンの建設費が膨れ上がっている。当初の想定より約 40 億円増えて、約 115 億円になる見込みだ。府は 22 年 10 月 11 日、資材高騰などを理由に建設費を増額する補正予算案を議会に提出。同 26 日に可決された。



吉村洋文知事は、「府民のみなさんに対して申し訳ない」と述べた。同 21 日、市も同様の補正予算案を議会に提出している。

資材高騰などによる建設費の上振れ問題が浮上したのは 22 年 8 月ごろ。発注業務を担う一般社団法人「2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン」（以下、社団法人）が実施した建設工事に関する公募型プロポーザルで、応募者の竹中工務店が約 195 億円という見積もりを提案したのだ。22 年 5 月公表のプロポーザル実施要領では、事業費の参考額として約 74 億円を示しており、約 121 億円の開きが判明した。

プロポーザルには竹中工務店を含めて 2 者が応募したが、技術提案書の受付期間に 1 者が辞退し、唯一、技術提案書を提出した竹中工務店が審査対象となった。審査では、選定委員会が価格点(90 点満点)、実績審査評価点(40 点満点)、技術提案審査評価点(170 点満点)を合計して 300 点満点の総合評価点を付けることになっている。

竹中工務店の総合評価点は「マイナス 153.57 点」。にもかかわらず、優先交渉権者に選ばれた。なぜこのようなことが起こったのか。府・市万博推進局の彌園友則局長が 22 年 9 月に市都市経済委員会で説明した内容によると、竹中工務店は実績審査で 22 点、技術提案審査で 152 点を得ていたが、価格点でマイナス 327.57 点もの減点を受けていた。プロポーザルの実施要領に示されている価格点の算出方法では、見積もりが 68 億円未満であれば満点の 90 点、99 億円以上でマイナスに転じる。同社は上述のように約 195 億円を提示したため、大幅なマイナスになったというわけだ。社団法人は竹中工務店が提示した見積価格について、「想定外だった」としている。

まず驚いたのは、総合評価点がマイナス 153.57 点の竹中工務店が、なぜ第一優先交渉権者(施工予定者)に選ばれたかである。1 者だけが審査であり、強引に選定を進めたのであろう。IR カジノの業者選定の経過を思い出す。これも万博の闇の一つだろうか。

(2022 年 11 月 4 日)